

教員長期社会体験研修 7～9月期 研修報告

研修先：株式会社アドバコム エコチル編集部/札幌

研修者：札幌市立平岡公園小学校 宇賀神 智哉

【キャリアルアカデミー】子どものチャレンジする気持ちを大切に

エコチルでは、社会で即戦力として活躍できる人材の輩出を目指すキャリアルアカデミーをプレ開校した。その第1弾として、エコチル9月号中高生版では、中学生に記事を書いてもらうことになった。記事は「一人の人物の考え方や生き方を伝える記事」、「高校紹介記事」の2本とした。取材相手は、プロサッカー選手・実業家の本田圭佑さん、札幌新陽高校に決まった。

「たくさんの中高生に良い影響を与える記事を書きたい」という中学生たちの熱意が本田圭佑さんのスタッフに伝わり、本田さん本人へのZoomを使った取材が実現した。“常に前向きに考えるコツ”、“夢が叶わないかもしれないと感じていても夢を追い続けるべきか”、“やる気になれないときの気持ちの切り替え方”など、中学生ならではの悩みを相談する形の取材となった。このときの様子はYouTubeでも公開した。

新陽高校には、中学生たちが直接訪問し、「探究コース」の生徒にインタビューし、荒井校長先生からは中学生に向けてのメッセージをいただいた。

取材してきたことを中学生がまとめ、ZoomやLINEを使って連絡を取り合いながら推敲していった。デザインはエコチル編集部で行い、エコチル9月号中高生版に掲載することができた。中学生たちはこれに満足せず、まだまだチャレンジしていきたいと意気込んでいるので、今後も記事を書かせていく予定だ。

“未来を担う子どもたちを応援したい”、“学校と関わって子どもたちを育てていきたい”という想いを持っている企業は多い。特に、時代にあったこと、新しいチャレンジなどに対しては、とても協力的だと感じた。子どもたちのチャレンジに対して「無理だよ」「やめときな」など、ネガティブな言葉をかけずに、やりたいことにチャレンジさせてみるのが大切だと学んだ。



▲エコチル9月号中高生版
中学生が作成した記事



▲この活動を本田圭佑さん本人がTwitterでつぶやいてくれた。

【企業局×YouTuber コラボ動画制作】それぞれの想いを尊重する

水力発電所、工業用水道などを運営している北海道企業局からエコチルに記事を書かせたいと依頼が来た。例年、企業局は、小学生向けに「水力発電所・工業用水道の親子見学会」を実施して事業PRをしてきたが、今年は親子見学会が実施できないので、水力発電所・工業用水道を紹介する記事を書いてPRしたいということだった。エコチルでは、記事と動画を連動させた新企画を始める予定だったので、「エコチルに載せるだけでなく、YouTuberを現場に行かせて撮影



▲水力発電の仕組みをトレジャーハンター風に撮影

し、動画にして公開するというのはどうですか」と提案した。すると、企業局の方もこの提案を承諾してくださり、“水力発電所・工業用水道について子どもたちに知ってもらいたい”という企業局と、“子どもたちが楽しめる動画を作ることが得意”な YouTuber のコラボが実現することとなった。



▲YouTuber と企業局職員が工業用水になる水、汚れになりきって、障害物競走風に再現

夕張の水力発電所と、苫小牧地区工業用水道で撮影を行い、YouTuber に編集をしてもらい、動画を完成させた。この動画は北海道庁の YouTube チャンネルにアップされた。

私は、正確な情報を伝えたい企業局と、面白さを追求したい YouTuber の間に入り、かたくなりすぎず、ふざけすぎず、というバランスを取る役割をした。それぞれが持っている想いが必ずしも一致しているとは限らないので、双方の想いを尊重しつつ、折り合いを付けていくことの大切さを学んだ。

【北海道レジ袋チャレンジ】行政・企業・学校が連携し、道民の環境意識を高める

北海道環境局とエコチルで「プラスチックごみ排出抑制」のキャンペーンを行うことになった。“日頃からエコバッグを持ち歩き、レジ袋をもらわないようにする”というライフスタイルを根付かせるためにはどうすればよいか話し合い、「北海道レジ袋チャレンジ」を企画した。学校で配布されるエコチル 10 月号にカレンダー式ワークシートを掲載し、“1 日 1 枚もレジ袋をもらわなかったらキャラクターに色を塗る。家族全員で取り組み、7 日間連続で達成したらプレゼント応募をすることができる”というルールとし、子どもたちが楽しく取り組めるようにした。この企画には、後援として北海道、札幌市、環境省が入り、鈴木知事からもメッセージをいただいた。また、環境保護を目的とした CSR 活動（企業の社会的責任）に力を入れている企業が、この企画に協賛してくださった。行政・企業・学校を巻き込んだ企画となった。



▲北海道レジ袋チャレンジ カレンダー式ワークシート

<3 か月間のまとめ>

この 3 か月間は、北海道企業局、環境局、札幌市スポーツ局など、行政と仕事をさせていただくことが多かった。地域を盛り上げるために「官民連携」はとても重要である。それぞれの得意分野を生かしながら、担当者同士が共通のビジョンを持って取り組むことで、プロジェクトはスムーズに進んでいくように感じた。“子どもたちの成長をサポートしたい”と考えている企業は多くあり、学校と民間企業が連携することはこれから増えてくることが予想される。特に、プログラミング教育、キャリア教育などでは、積極的に民間企業の力を借りるべきではないかと感じた。

半年間の研修の間に 150 名以上の方と名刺交換を行い、メール・電話のやり取りのみの方も含めるとさらに多くの方と関わってきた。そこで常に必要とされたのは、“初対面の相手と打ち解ける力”、“自分の考えを伝える力”、“相手の考えを読み取る力”だった。今回の研修を通して、コミュニケーション能力の大切さを強く実感した。普段から校内の先生方はもちろん、他校の先生、さらには異業種の方とも話す機会を作っていきたい。また、子どもたちのコミュニケーション能力を高めるためには、学級の交流だけでなく、学年での交流、異学年交流などを頻繁に行うなど、様々な人と接する場面を多く作ることが大切だと改めて感じた。